

第 31 回庭野平和賞贈呈理由

第 31 回庭野平和賞は、「女性による世界平和イニシアティブ (Global Peace Initiative of Women-GPIW)」におけるリーダーシップについて、ディーナ・メリアム(Dena Merriam)氏に贈呈される。庭野平和賞委員会と庭野平和財団は、ディーナ・メリアム氏によるクリエイティブで確固とした平和への取り組みと、多様で豊かな活動を通して今日の世界が直面する最重要課題に取り組む中で、平和活動における宗教の重視に徹した同氏の功績を表彰する。メリアム氏は、女性たちがそれぞれの信仰心から発する声と力を結び合わせることで、これまでにない世界の動きのなかで、現実には女性たちがその中核となるために取り組んでいる、世界的なリーダーである。東西の宗教の識見が、バランスを保ちながら協力できるように、メリアム氏は精力的に活動をしている。智慧の探求と、より公正で持続可能な世界の探求を通じた人類への貢献に対し、ディーナ・メリアム氏に庭野平和賞を贈りその功績を表彰する。

ディーナ・メリアム氏はアメリカ人。2002 年に GPIW を設立し、以来その代表として活動している。同団体は、世界の諸宗教間の運動や活動において、女性の役割に対する認識があまりにも低いことを懸念したメリアム氏が、中心メンバーとなる同僚たちと共に設立した。歴史に残る西暦 2000 年の国連総会フォーラムの前夜、メリアム氏は国連で、先駆的なミレニアム平和サミットの組織準備の中心的な役割を担っていた。しばしば女性は、宗教コミュニティの支柱としての役割を果たし、また宗教の叡智を、世代を超えてつないでいく存在であるにもかかわらず、その時の彼女の眼に女性たちの姿が映ることはほとんどなかった。他の諸宗教による行事でも、そうした状況は変わらなかった。そのため、彼女は 2002 年にジュネーブで女性宗教者の世界会議を組織し、それが GPIW の誕生となった。

フォーマルな場では目に留まることはほとんどないが、GPIW の活動の中心は、宗教の分野で、女性がリーダーとして果たす重要な役割に正しい評価を与えることである。それは、女性の役割に声を与え実行に移そうとする決意を反映している。GPIW の活動は知的かつ具体的である。平和と正義に影響を与える重大な政策問題に、インスピレーションと識見を結びつける。宗教伝統の違いを超え、女性にはバランス、調和、癒しなど、深い精神的な要素があるという幅広い共通理解がある。GPIW はそうした理解に立脚し、女性の精神的要素に光を当てる活動を主な使命としている。

メリアム氏のリーダーシップのもと、GPIW は 2002 年以降、世界各地で幅広い活動に従事してきた。常に女性がその中心的な役割を担ってきた一方、男性も活動に関わることで GPIW は男女のバランスと統合を目指している。GPIW はイラクやアフガニスタンなど、

戦争で荒廃した地域の人々を和解に導く活動をしている。GPIW は男女の青年リーダーを集め、緊張が高まっている主要な地域を選び、若者の声を反映した共通の解決方法を探求した。また、経済的平等と環境保護という、二つの重要な今日の問題に対し、次第に関心を絞っている。宗教界のリーダーにインスピレーションを求めながら、ディーナ・メリアム氏は、将来に向けた道徳的基盤の探求に取り組んでいる。GPIW により、環境問題を論ずる主要な世界会議に、宗教指導者のグループの参加が進められているが、そこで GPIW が強調するのは、環境問題は道徳や宗教に関連するものであり、その点が討議の中心に据えられれば問題解決は可能だということである。

ディーナ・メリアム氏は、幅広い宗教伝統に対する理解と敬意を備えた卓越した人物である。ユダヤ教の世俗の伝統の中で育ったメリアム氏は、数多くの伝統に精通し、東洋の宗教の識見と声を、世界の諸宗教活動に導入することに強い決意を示している。

ディーナ・メリアム氏と GPIW は、平和に向け、たゆみない活動を続けている。人と人を結びつけるために、何度も会議を重ね、途切れることなく訪問を続け、出会いから得たインスピレーションを新たな高みに導き、世界の隅々に届けている。メリアム氏は繊細な問題に対しても怖れることなく力強い発言を行い、その一方で、言葉に込められたニュアンスや含意に細心の注意を忘れない。そして、休むことなく、クリエイティブに、公益の推進に取り組んでいる。

ディーナ・メリアム氏は数多くの人々に感動を与え、人々の中に生まれた宗教的な気づきとエネルギーを、人類の公益に向けた活動に導く手助けをしている。彼女の平和のビジョンは幅広く、それは性別や東西の違いを超え、国土にも人類にも通ずる共通の課題である。以上のディーナ・メリアム氏による取り組みとインスピレーションが、同氏に対する 2014 年庭野平和賞贈呈の理由である。